

大規模災害に対する備えの現状と課題

第5回 香川大学 危機管理シンポジウム

2013年2月20日(水) サンポートホール高松 5階

April 22, 2013

作成者：香川大学危機管理研究センター

序 文

香川大学危機管理研究センターでは、平成20年4月の開設以来、各年度末に「危機管理シンポジウム」を開催し、地域の皆さんと一緒に防災・減災・危機管理に関して意見交換させて頂く場を設けて参りました。シンポジウムでは、その年に実施した事業報告を行うと共に、最新の防災・危機管理に関する話題をテーマにした「基調講演」並びに「パネルディスカッション」を実施して、地域における防災・危機管理教育研究拠点としての役割を果たすべく努めて参っております。

平成20年度～23年度までに開催して参りました危機管理シンポジウムのテーマは以下の通りです。

第1回（平成20年度）：「災害と医療」

第2回（平成21年度）：「災害と市民生活」

第3回（平成22年度）：「災害と地域防災」

第4回（平成23年度）：「大規模災害時の地域コミュニティ継続に向けて」

第5回（平成24年度）の危機管理シンポジウムのテーマは、平成24年8月29日に内閣府・中央防災会議から公表された南海トラフ巨大地震による被害想定を受けて、「大規模災害に対する備えの現状と課題」と致しました。講師には、中央防災会議の「南海トラフ巨大地震モデル検討会」委員で、（独）海洋研究開発機構地震・津波防災研究プロジェクトリーダー、香川大学危機管理研究センター客員教授の金田義行氏をお招きして、「南海トラフ巨大地震研究の最前線」を演題に基調講演を頂きました。その後、パネルディスカッションでは、「災害を正しく知って正しく備える」をテーマに、地域の行政、コミュニティ、自主防災の関係者の皆様から、「南海トラフ巨大地震に対する備えの現状と課題」についてご発言いただき、地域連携の在り方について意見交換をさせて頂きました。パネリストの皆様には、それぞれの立場から貴重なご意見を賜りました。危機管理研究センターの今後の活動に活かして参りたいと考えております。

本日のシンポジウムには、243名の皆様にご参加頂きました。このシンポジウムを含めて平成24年度の活動を振り返りますと、多くの方々にご協力賜りました。地域の皆様方の防災・減災意識の高さを感じるとともに、地域防災力向上に危機管理研究センターが果たすべき役割の重要性を改めて認識致しました。今後も学長を始め教職員の皆様、国土交通省、香川県および県下市町、自主防災組織や各種市民団体や民間企業の皆様のご協力のもと、地域防災力向上のための防災教育研究活動に邁進したいと思っています。今後ともご支援ならびにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成25年4月

危機管理研究センター長
白木 渡

* 目次 *

◇ シンポジウムチラシ	2
● 第Ⅰ部 地域報告会・活動報告	
◇ 「危機管理研究センター平成24年度事業報告」	
* 「地域継続マネジメント(DCM)推進室」成果報告他	工学部教授 白木 渡センター長.....3
* 防災士養成講座(社会人向け)及び防災士養成特別教育プログラムの紹介	工学部教授 長谷川 修一8
* 学校・市民防災教育への支援活動の紹介	工学部教授 井面 仁志13
・香川県教育委員会の学校防災アドバイザー派遣事業報告	
・防災教育推進委員会活動状況	
* メンタルヘルスプロジェクト活動の紹介	医学部准教授 鈴江 毅23
◇ 開会挨拶	香川大学理事 産学官連携推進機構長 大平 文和26
◇ 来賓挨拶	国土交通省四国地方整備局長 川崎 正彦氏26
	香川県危機管理総局長 伊勢野 正憲氏26
	高松市総務局長 岡本 英彦氏27
● 第Ⅱ部 基調講演	
「南海トラフ巨大地震研究の最前線」	
(独)海洋研究開発機構地震・津波防災研究プロジェクトリーダー 金田 義行氏.....27	
香川大学危機管理研究センター客員教授	
● 第Ⅲ部 パネルディスカッション「災害を正しく知って正しく備える」	
◇コーディネーター香川大学危機管理研究副センター長	岩原 廣彦.....31
◇アドバイザー(独)海洋研究開発機構 地震・津波防災研究プロジェクトリーダー	金田 義行氏
◇パネリスト 国土交通省四国地方整備局企画部長	石井 一生氏.....32
香川県教育委員会事務局保健体育課主任指導主事	高木 成明氏.....32
高松市総務局次長	河西 洋一氏.....34
坂出市総務部職員課危機管理室長	高木 照男氏.....35
香川県防災士会会長	久保 雅和氏.....36
◇意見交換	36
◇ 閉会挨拶	香川大学危機管理研究センター長 白木 渡.....40
◇ 基調講演発表資料	41
◇ アンケート結果集計	62
◇ アンケート結果(コメント)	63



KAGAWA
UNIVERSITY

大規模災害に 対する備えの 現状と課題

第5回 香川大学 危機管理シンポジウム

日時 2013年2月20日(水) 11:30~17:00(開場11:00)

場所 サンポートホール高松5F 第2小ホール

■ 第1部 地域報告会・活動報告(11:30~12:30)

危機管理研究センター平成24年度事業報告

「地域継続マネジメント(DCM)推進室」成果報告他

白木 渡 センター長(工学部教授)

防災士養成講座(社会人向け)及び防災士養成特別教育プログラムの紹介

長谷川修一(工学部教授・危機管理研究センター研究員)

学校・市民防災教育への支援活動の紹介

・香川県教育委員会の学校防災アドバイザー派遣事業報告

・防災教育推進委員会活動状況

井面 仁志(工学部教授・危機管理研究センター研究員)

メンタルヘルスプロジェクト活動の紹介

鈴江 毅(医学部准教授・危機管理研究センター研究員)

開会挨拶

主催者挨拶(13:30~13:35)

大平 文和(理事 産学官連携推進機構長)

来賓挨拶(13:35~13:50)

川崎 正彦氏 国土交通省四国地方整備局長

伊勢野正憲氏 香川県危機管理総局長

岡本 英彦氏 高松市総務局長

■ 第2部 基調講演(14:00~15:00)

「南海トラフ巨大地震研究の最前線」

金田 義行氏(独)海洋研究開発機構 地震・津波防災研究プロジェクトリーダー

(香川大学危機管理研究センター客員教授)

平成24年8月29日内閣府から、南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等(第二次報告)及び被害想定(第一次報告)が公表されました。これを受けて各自治体では、個別の防災対策が検討されています。本講演では、南海トラフ巨大地震研究の最前線の状況と香川県を対象にした被害想定を正しく理解し、どのように備えなければならないのかについて講演をしていただきます。

休憩(15:00~15:20)

■ 第3部 パネルディスカッション(15:20~16:50)

「災害を正しく知って正しく備える」

コーディネーター 岩原 廣彦(副センター長)

アドバイザー 金田 義行氏((独)海洋研究開発機構

地震・津波防災研究プロジェクトリーダー)

パネリスト 石井 一生氏(国土交通省四国地方整備局企画部長)

高木 成明氏(香川県教育委員会事務局保健体育課主任指導主事)

河西 洋一氏(高松市総務局次長)

高木 照男氏(坂出市総務部職員課危機監理室長)

久保 雅和氏(香川県防災士会会長)

南海トラフ巨大地震の新たな想定を受けて、国土交通省四国地方整備局、香川県、高松市、坂出市から、災害への備えの現状報告(四国地震防災基本戦略、災害情報連携、防災行政無線、自主防災組織結成率、防災教育など)および、防災士会から民間における災害への備えの現状報告発表。次に、現状での課題(国、市町村の情報連携や相互支援体制など)を抽出し、それを今後どのように解決して行くかについて意見交換を行います。

閉会挨拶(16:50~16:55)

白木 渡 センター長(工学部教授)

主催/香川大学危機管理研究センター 共催/(公社)土木学会四国支部香川地区

後援/国土交通省四国地方整備局、香川県、高松市、坂出市、(公社)日本技術士会四国本部、香川県防災士会、かがわ自主ぼう連絡協議会、NPO法人災害に強いまちづくり研究会、

四国4大学防災関連研究センター連携協議会、NHK高松放送局、RNC西日本放送、TSCテレビせとうち、KSB瀬戸内海放送、四国新聞社

土木学会継続教育(CPD)プログラム認定

1. 第I部 地域報告会・活動報告 11:30~12:30 (資料別添)

- ◇ 「危機管理研究センター平成24年度事業報告」
- 「地域継続マネジメント(DCM)推進室」成果報告他 11:30~11:45



白木 渡 (工学部教授 危機管理研究センター長)

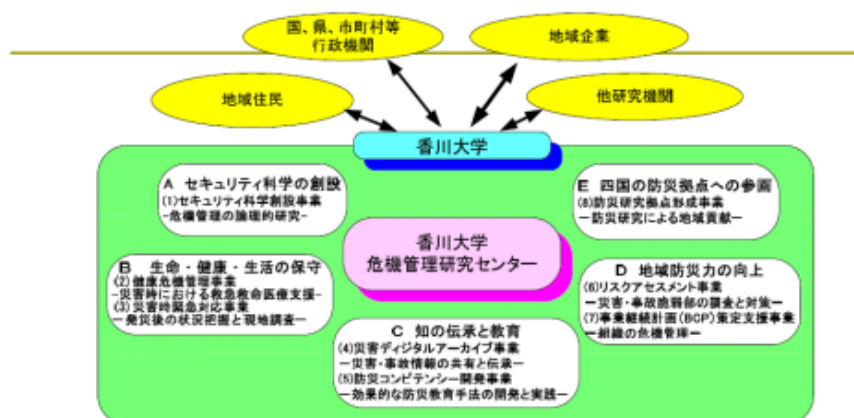
香川大学危機管理シンポジウム(第5回)

香川大学危機管理研究センター

「平成24年度の取組み」

香川大学危機管理センター長
白木 渡

1. 危機管理研究センター概要



平成20年4月、**地域社会の安全・安心に寄与**することを目的として設立。
地震、津波、高潮、河川氾濫等の**自然災害**、およびテロ、事故や犯罪等の**人為災害**から人々の生命や財産を守り、**危機管理に関する学術的・技術的研究開発**ならびに**人材育成**。

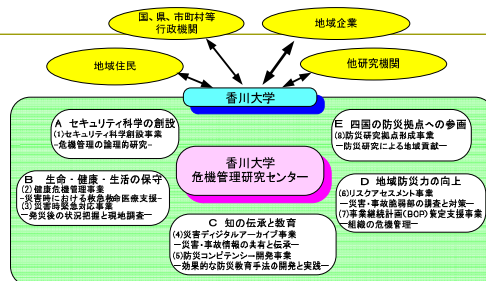
香川大学危機管理シンポジウム（第5回）

香川大学危機管理研究センター

「平成24年度の取組み」

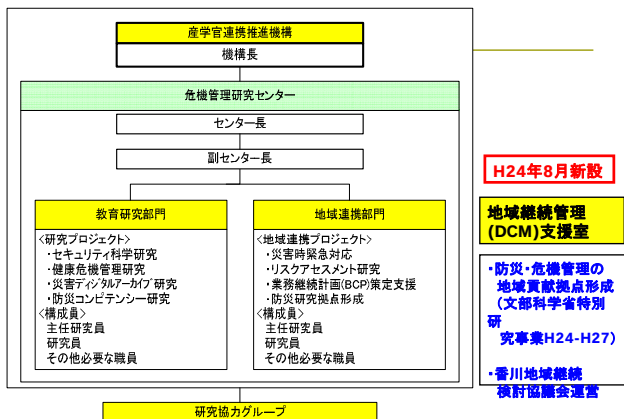
香川大学危機管理センター長
白木 渡

1. 危機管理研究センター概要



平成20年4月、**地域社会の安全・安心に寄与**することを目的として設立。
地震、津波、高潮、河川氾濫等の**自然災害**、およびテロ、事故や犯罪等の**人為災害**から人々の生命や財産を守り、**危機管理に関する学術的・技術的研究開発**ならびに**人材育成**。

2. 危機管理研究センター組織



3. 香川大学危機管理研究センター（スタッフ）

センター長 白木 渡（工学部教授）

研究員	寺尾 徹（教育学部准教授）
	野田 茂（工学部教授）
	長谷川 修一（工学部教授）
	松島 学（工学部教授）
	吉田 秀典（工学部教授）
	末永 慶寛（工学部教授）
	井面 仁志（工学部教授）
	今井 滋郎（工学部教授）
	石塚 正秀（工学部准教授）
	野々村 敦子（工学部准教授）
	山中 稔（工学部准教授）
	平尾 智広（医学部教授）
	黒田 泰弘（医学部教授）
	錦江 毅（医学部准教授）
	横井 英人（医学部附属病院教授）
	中村 文洋（医学部准教授）
	清園 祐二（生涯学習教育研究センター教授）

特命教員 磯打 千雅子（特命准教授）

高橋 亨輔（特命助教）

客員教授 金田 義行（（独）海洋研究開発機構 プロジェクトリーダー）

客員研究員 林 宏年（（株）五重）



4. 平成24年度の主な取組み(1)

□ 地域防災貢献事業

(1) 地域防災リーダー養成講座の開講

香川大学の学生及び地域の人々を対象とした
「**防災リーダー養成講座**」の開講

・通年コース

全学共通科目として前期、後期の通年で開催
(学生:約195名, 社会人5名:計約200名)

・短期コース

平成24年10月～平成25年2月の
第3土曜日:計5回 (約130名受講)

・**防災士受験者数**:約170名

4. 平成24年度の主な取組み(2)

「防災士」養成講座

- ・防災士: **21年度30人、22年度64人、23年度115人 合格**
- ・大学生:防災リテラシー養成講座(災害を知る)
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)
- ・社会人:公開講座地域防災リーダー養成講座(短期コース)
22年度(40名受講)、23年度(83名受講)
24年度(136名受講中)



普通救命講習



災害図上訓練(DIT)

香川地域継続検討協議会の取り組み

- ・平成24年度：香川地域継続計画(DCP)策定
- ・平成25年度：香川地域継続計画(DCP)アクションプラン、四国地域継続計画骨子の策定
- ・平成26年度：四国地域継続計画(DCP)策定

月1回の勉強会、
3か月に1回の定期会議を開催

1. 事業概要 <平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組の概要>

取組名称：四国防災・危機管理特別プログラム共同開設による専門家の養成
取組大学：香川大学（代表校）徳島大学

本事業は、東日本大震災を踏まえて、大規模広域災害やグローバル化する危機に対して適切に対応できる専門家を養成する取組です。東南海・南海地震が想定される中、香川大学と徳島大学は、「防災士養成講座」や「建設業BCP策定支援」等の連携実績、成果を活用して、香川県と徳島県の協力の下に新たな特別教育プログラムを開設し、社会が必要とする実践力を備えた防災・危機管理の専門家を養成します。

災害時、特に必要とされる次の3タイプの専門家を養成します。

○**学校防災・危機管理マナージャー**
地域コミュニティと連携して、学校・地域の防災教育、学校の事業継続計画(BCP)策定、児童・生徒の安全・安心を守る指導者

○**行政・企業防災・危機管理マナージャー**
地域社会を構成する自治体・企業・地域組織のリスクマネジメント、組織及び地域のBCP策定、住民の安全・安心を守る防災・危機管理マナージャー

○**救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター**
被災住民の視点に立って、災害時医療、医療機関のBCP策定、公衆衛生対策、災害時の安全・安心を確保する人材

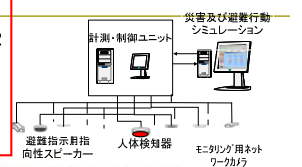


2. 開講科目・単位(案)と連携体制

	各大学実施科目	分担実施科目	選択科目
香川大学	<救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成科目群> ・災害医療マナージメント (2単位) ・健康危機管理 (2単位) ・救急救命・災害医療実務演習 (1単位) (計5単位)	<共同実施基礎科目群> ・リスクコミュニケーション (2単位) ・危機管理学 (2単位) ・災害と健康危機管理・メンタルヘルスケア (2単位) ・防災・危機管理実習 (1単位) (計7単位)	・インターンシップ(外部機関) (2単位)
徳島大学	<学校防災・危機管理マナージャー養成科目群> ・教育機関のリスクマネジメント (2単位) ・教育継続計画(BCP)の策定と実践 (2単位) ・学校防災・危機管理実務演習 (1単位) (計5単位)	<行政・企業防災・危機管理マナージャー養成科目群> ・行政・企業のリスクマネジメント (2単位) ・事業継続計画(BCP)の策定と実践 (2単位) ・行政・企業防災・危機管理実務演習 (1単位) (計5単位)	

3. 防災コンピテンシー教育研究システム・訓練システムの開発

- ・**防災コンピテンシーとは**、突発的な事故や災害に対して適切な判断、意志決定、行動できる能力をいう。
- ・**開発目的は**、防災コンピテンシーを有し、想定外の事態に遭遇しても自分自身の身を守り、周辺の人々の避難誘導、救出活動ができる人材養成に活用するため。
- ・**活用対象は**、学校、地域コミュニティ、企業、行政、病院・福祉施設等の防災・危機管理に従事する社会人及び勤務を目指す学生である。



- ・平成25年2月に完成予定
- ・日本初の画期的な防災・危機管理能力開発・教育システム

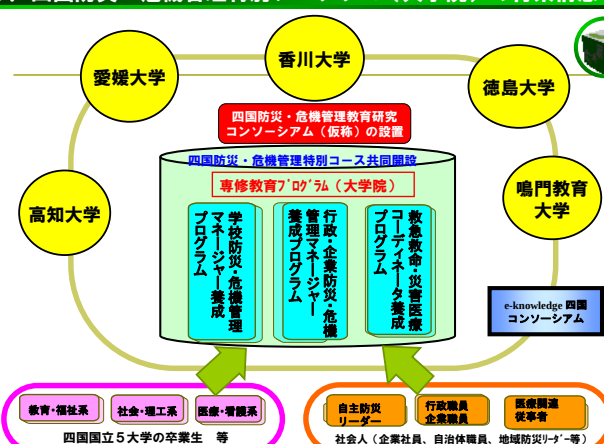
3次元VRシステム

仮想救急救命医療施設(VR-Hospital)・防災コンピテンシー開発支援施設

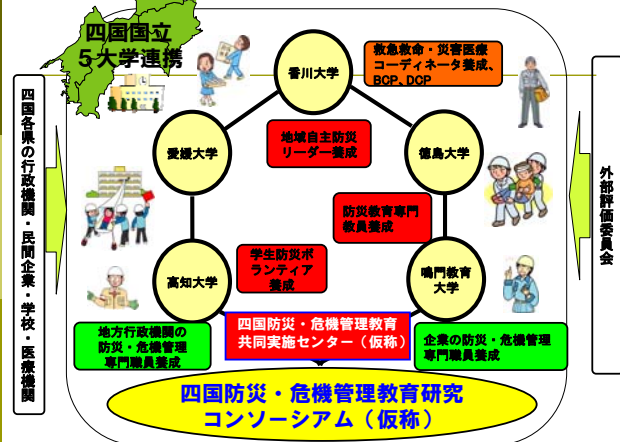
4. 全体像 <四国防災・危機管理特別プログラム共同開設による専門家の養成>



5. 四国防災・危機管理特別プログラム（大学院）の将来構想



6. 四国防災・危機管理教育研究コンソーシアム（仮称）の位置づけ



☆ 防災士養成講座(社会人向け)及び防災士養成特別教育プログラムの紹介
11:45~12:00



長谷川 修一(工学部教授 危機管理研究センター研究員)

第5回香川大学危機管理シンポジウム, 2013.2.20

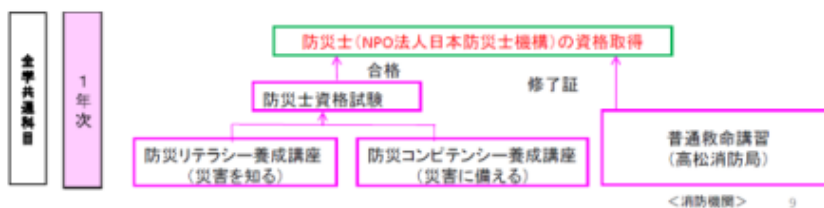
防災士養成講座(社会人向け)及び 防災士特別教育プログラムの紹介



香川大学危機管理研究センター 長谷川修一

香川大学では防災士の受験資格を取得 できる講義を平成21年度から開始

- ・在校生: 前期・後期合わせた通年コース(H21~)
 - 防災リテラシー養成講座(災害を知る)
 - 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)
- ・社会人: 10月から2月で5日のコース(H22~)
 - 防災士養成講座(短期コース)



防災士養成講座(社会人向け)及び 防災士特別教育プログラムの紹介



香川大学危機管理研究センター 長谷川修一

防災・危機管理教育の背景
日本人は世界的な災害列島に暮らしている

図1-1-1 世界の災害に比較する日本の災害



注) 2000年から2009年の合計。日本については気象庁、世界については米国地質調査所(USGS)の震源資料をもとに内閣府において作成。

注) 活火山は過去およそ一万年以内に噴火した火山等。
日本については気象庁、世界については米国のスミソニアン自然史博物館の火山資料をもとに内閣府において作成。



過去20年の災害
死者数約3万人
(2012年国連)

過去20年の災害損失32兆円、日本が世界2位(2012年国連)

注) 1979年から2008年の合計。ベルギー・ルーヴェン・カトリック大学社会学研究センター(CRED)の資料をもとに中国語において作成。

内閣府「平成22年度版防災白書」に加筆

<http://www.bousai.go.jp/hakusho/h22/bousai2010/html/zu/zu001.htm>

防災施設(堤防・防潮堤・ダム等)の整備によって被害は少なくなっているが、巨大災害は今も脅威

人的被害、建物被害等(阪神・淡路大震災との比較)

	東北地方太平洋沖地震	阪神・淡路大震災
人的被害	死者:15,234名 行方不明者:8,016名 (5月20日時点)	死者:6,434名 行方不明者:3名
建物被害	全壊:102,886戸、半壊:58,518戸 (5月20日時点)	全壊:104,906戸、半壊:144,274戸
災害救助法の適用	241市区町村(10都県) (東京都:23区、千葉県:27市、埼玉県:30市、 茨城県:30市、栃木県:28市、群馬県:23市、 山梨県:22市、長野県:20市、新潟県:16市、 富山県:12市、石川県:10市、福井県:9市、 岐阜県:10市、静岡県:10市、愛知県:10市、 三重県:10市、滋賀県:10市、京都府:10市、 大阪府:10市、兵庫県:10市、奈良県:10市、 和歌山県:10市、鳥取県:10市、島根県:10市、 岡山県:10市、広島県:10市、山口県:10市、 徳島県:10市、香川県:10市、愛媛県:10市、 高知県:10市、福岡県:10市、佐賀県:10市、 大分県:10市、熊本県:10市、鹿儿岛県:10市、 沖縄県:10市)	25市町(2府県)
震度4分布図 (震度4以上を表示)		

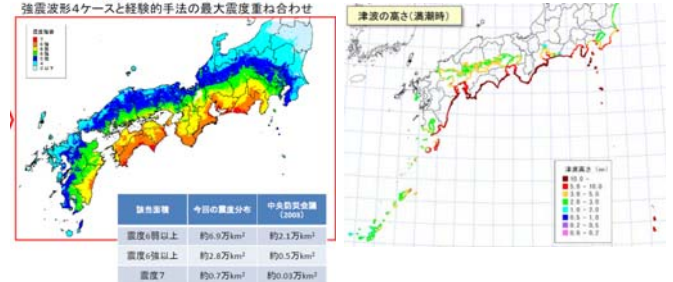
[illegible]

2 3

南海トラフ巨大地震の脅威

- ・ 今後さらに巨大な災害が待ち受けている
 - ・ 生き残って、日本を再建するのは若い世代
- ⇒防災の知識と技術を備えた人材の養成が喫緊の課題

【最大クラスの震度分布】



http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/nankai_trough/15/kisya_5.pdf

防災士養成講座の背景



5

地域防災に対する大学の役割

- 行政・住民への支援
 - 防災の施策への提言・助言
 - ソフト対策の支援:ハザードマップの整備・IT技術
 - 防災教育・防災訓練の支援
 - 町づくり・都市計画への提言・助言(学会・学術会議)
- (2)教育・研究
- 災害調査⇒減災対策へ活用
 - 災害記録の収集・保存⇒アーカイブ
 - 技術開発:シミュレーション技術など
 - 人材の育成:自助・共助(ボランティア要員⇒リーダー)

香川大学の中期目標

(1) 香川大学中期目標

・学生・職員等の安全確保

(2) 香川大学中期計画

・学生・教職員の安全衛生教育を計画的に実施
・災害、大規模事故等の危機に備え、危機管理体制を整えとともに、学外との連携を強め、地域貢献にも努める

(3) 経済財政改革の基本方針2007

・防災・減災対策の着実な推進、大規模地震、大規模水害・土砂災害、津波・高潮、豪雪等への対策として、ハザードマップの普及促進等を推進

7

目標：防災コンピテンシーの育成

(1) 防災コンピテンシー

災害発生時に臨機応変に適切な判断・行動を素早くとれる能力

(2) 目標

防災コンピテンシー育成のための教育プログラムの開発・実践

(3) 方法論

ソフトコンピューティングを活用したシミュレーション

⇒防災・危機管理の素養を持った人材の養成

8

香川大学では防災士の受験資格を取得できる講義を平成21年度から開始

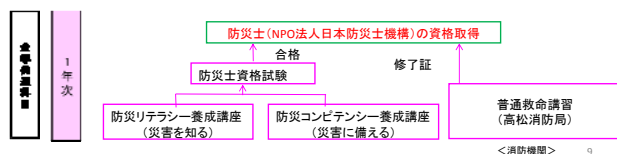
・在校生：前期・後期合わせた通年コース（H21～）

防災リテラシー養成講座（災害を知る）

防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）

・社会人：10月から2月で5日のコース（H22～）

防災士養成講座（短期コース）



9

防災士とは

1. 防災士とは、

① NPO法人日本防災士機構が認定する民間の資格。

② 社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のために十分な意識・知識・技能を有する人を、日本防災士機構が防災士認証規準に基いて防災士と認定している。

2. 防災士になるための手順

① 日本防災士機構が認定した研修機関による防災士養成研修を受けて「履修証明」を取得する。

⇒香川大学は平成21年度から防災士の研修機関として認証を受けている。

② 日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」に合格する。

③ 各自治体、地域消防署、日本赤十字社等の公的機関が主催した「救急救命講習」を受け、その修了証を取得する。

④ 上記3項目の条件を備えた上で「防災士認証登録」を行う。

防災士認証者数



(日本防災士機構HPより)

防災士試験合格者数

- ・防災士の資格をめざす学生は受講者の2～3割
- ・社会人（公開講座）は受講者のほぼ全員が資格取得
- ・平成25年度は学生39名、社会人125名が受験

年度	学生 受講者	学生 合格者	社会人 合格者	合格者 計
平成21年度	51	15	15	30
平成22年度	141	19	45	64
平成23年度	199	37	78	115
計	291	71	138	209

12

平成24年度「防災士」養成カリキュラム

序論：防災士の役割ほか

- 1. いのちを自分で守る：12時間（8講座）
- 2. 地域で活動する：11時間（7講座）
- 3. 災害発生のしくみを学ぶ：9時間（6講座）
- 4. 災害に係わる情報を知る：8時間（5講座）
- 5. 新たな減災や危機管理の手法を身につける
8時間（5講座）
- 6. いのちを守る（救急）：3時間（2講座）課外

平成24年度防災リテラシー養成講座（災害を知る）

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	4/12	ガイダンス（防災士を目指す） 防災士の役割	白木 渡 長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
2	4/19	近年の自然災害に学ぶ —災害現場からの教訓—	乃田俊信	香川県防災局	
3	4/26	地震・津波のしくみと被害	長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
4	5/10	訓練と防災研修 意思決定訓練（クロスロード）	長谷川修一・野々村 敦子・機打千雅子	工学部・危機管理研究センター	
5	5/17	先人の教えに学ぶローテク防災術	松尾裕治	（財）日本建設情報総合センター 四国地方センター	
6	5/24	火山噴火のしくみと被害	山中 稔	工学部・危機管理研究センター	
7	5/31	風水害と対策	寺尾 徹	教育学部・危機管理研究センター	
8	6/7	土砂災害と対策	長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
9	6/14	防災気象情報の知識と活用 —公的機関による予言観—	水害対策気象官	高松地方気象台	
10	6/21	ライフラインと災害	岩原 廣彦	徳島県総合研究所	
11	6/28	火災と防火対策	予防課課員	高松市消防局	
12	7/5	ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション	井面仁志	工学部・危機管理研究センター	
13	7/12	災害・防災情報の入手と活用	三好謙一	香川県防災局危機管理課	
14	7/19	災害情報と災害報道	木原光治	四国新聞社編集局	
15	7/26	都市防災 修了式	白木 渡 長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
課外実習		香川県防災センター・高松市市民防災セ ンター見学（希望者）	防災センター職員	香川県防災センター 高松市市民防災センター	

平成24年度防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	10/4	ガイダンス 災害と危機管理	白木 渡	工学部・危機管理研究センター	
2	10/11	被害想定とハザードマップ	長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
3	10/18	訓練と防災研修 災害イメージ訓練—	長谷川修一 野々村敦子	工学部・危機管理研究センター	
4	10/25	災害と交通インフラ—国の南海トラフ巨大 地震対策—	宮本正司	国土交通省四国地方整備局企画部	
5	11/1	行政の災害対応と支援制度	福田健之	高松市総務部危機管理課	
6	11/15	身近でできる防災対策	久保雅和	香川県防災士会	
7	11/22	耐震診断と耐震補強	松島 学	工学部・危機管理研究センター	
8	11/29	災害医療	黒田泰弘	医学部附属病院・救命救急センター	
9	12/6	緊急救助技術を身につける	久保雅和 高橋真里	香川県防災士会	
10	12/13	地域の防災活動	かがわ自主ぼう連絡協議会		
11	12/20	惨事ストレスと心のケア	浅海明子	回生病院健康増進室	
12	1/12	災害ボランティア活動と避難所の運営	稲井光男	香川県社会福祉協議会	
13	1/17	災害と損害保険	鶴巻健雄	日本損害保険協会四国支部	
14	1/24	地域の再建と復興	長谷川修一	工学部・危機管理研究センター	
15	1/31	事業継続計画と地域継続計画 修了式	白木 渡	工学部・危機管理研究センター	
2/16		防災士認定試験（希望者） 【工学部3301教室を予定】	日本防災士機構	日本防災士機構	
課外実習（1/18、午 後）		消防救命講習 （防災士資格に取得に必須）	消防防災課課員	高松市消防局	

多彩な講師陣



現行の防災士資格教育の課題

- ・受講者は増えたが、学生の資格所得者は受講者の2～3割
- ・講師の熱意とのギャップあり
- ・座学中心で実践力が身につけていない
- ・防災士の資格を取得した後の継続教育がない
- ・学生防災士を組織化できていない



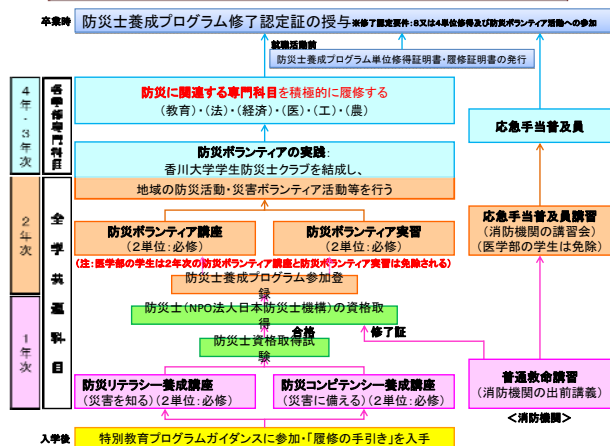
これらの課題を解決するには

防災リテラシー養成講座及び防災コンピテンシー養成講座を受講し、防災士の資格を取得した学生を対象に、2年次以降に香川大学防災士クラブ（仮称）に登録し、防災ボランティア活動を実践しながら、防災の実践力が身につく特別教育プログラムを提供する。

防災士養成特別教育プログラムのねらい

- ・目的
防災士の資格を持ち、職場や地域で率先して防災活動を行うことができる知識と技能をもつ人材を養成する。
- ・特色
単に資格も持っているだけでなく、実践力のある防災士を養成する。
- ・地域貢献
学生防災士クラブを結成し、災害ボランティア活動に参加する。また、香川大学機能別消防団の中核メンバーとして地域防災活動に参加する。
- ・将来の活躍分野
企業、行政機関、学校、地域における防災活動のコアメンバー、リーダーの候補。

防災士養成プログラム修了認定証授与までの流れ



2年次の授業科目(案)

- 区分: 高学年向け教養科目
- 到達目標: 防災士の資格を取得した学生が、防災ボランティアとして活躍できる基本技能を身につける。
- 講義科目
 - 防災ボランティア講座: 2単位必修
 - 防災ボランティア実習: 2単位必修
- 開始時期: 平成26年4月～

20

防災ボランティア講座(素案)

ガイダンス 防災ボランティア講座のねらい
防災士としての活動について
災害ボランティアの基本
地域での自主防災活動の心得
災害対応の基本
災害時の情報収集・伝達と避難情報
消防団・水防団の業務と安全確保
災害時の医療活動
災害ボランティアの安全衛生
災害ボランティアのメンタルヘルス
災害ボランティアセンターと避難所の運営
災害ボランティア活動事例
小学生のぼうさい探検隊活動
防災まち歩きと防災マップの作成
まとめ・修了式

21

防災ボランティア実習(素案:2月中旬集中)

ガイダンス 災害ボランティア実習のねらい
避難シミュレーション訓練(地震・火災・津波)
災害図上訓練(避難方法の検討)
エマルゴ訓練体験(情報伝達訓練)
エマルゴ訓練体験(トリアージ)
地震体験・煙体験・初期消火体験
災害時の非常食クッキング
ロープワーク
簡易救出活動
水防工法(土嚢ほか)
避難所運営ゲーム(HUG)
避難所設営ゲーム(HUG)
災害救援ボランティア演習
災害救援ボランティア演習
まとめ・修了式

22

防災ボランティアの実践

- 防災ボランティアの実践

本プログラム登録者は、香川大学学生防災士クラブ(結成予定)に登録し、地域の防災活動・災害ボランティア活動等を積極的に行う。また、高松市消防局の機能別消防団に所属し、香川大学の地域防災活動を推進する。防災ボランティア活動は単位認定の対象にならないが、顕著な功績のあった学生に学長表彰を授与する。
- 防災ボランティア活動の事例
 - 高松市総合防災訓練
 - 高松市震災対策訓練
 - 防災マップ作成支援
 - 災害ボランティア活動
 - 避難所運営ゲーム支援等
- 評価方法

ボランティア活動の実践記録と報告会の内容によって活動を評価し、他の学生の見本となる学生を学長表彰に推薦する。

23

香川大学の防災教育の課題

- 社会人向けのスキルアップ講座
 - ⇒香川県防災会と連携
 - ⇒大学院連携による防災危機管理教育
- 防災士を取得した学生の活用
 - ⇒学生防災士クラブ(香川大学支部)
 - ⇒機能別消防団の立ち上げ
- 教職員への啓発
 - ⇒香川大学BCPの推進
- 担当教員の負担増
 - ⇒専任コーディネーターの雇用

24